



情報通信技術を通じてつながる権利

The right to connect via information and communication technology

ICNの所信：

国際看護師協会（ICN）は、固定電話、携帯電話及びインターネット等の情報通信技術（ICT）を通じて、人々が相互につながり、情報共有が可能となるべきであると強く確信する。ICNは、ICTが良好な保健医療ケアへのアクセスを向上し、保健医療提供における不平等に対処し、及び保健医療ケアにおいて市民がより積極的な役割を果たすことに役立つと確信する。

看護師、他の保健医療従事者、患者、ケア提供者及び市民は、コミュニケーション、情報管理及び知識へのアクセスを行うため、ICTへの依存を強めている。しかしながら、重大で根強い、世界的な「デジタル・ディバイド¹」が存在する。

ICNは、人々のICTへのアクセスの低さが、その人々を不利な立場にすることを認識する。

ICNは、看護師にはパーソン・センタード・ケアを擁護する重要な役割があり、それはICTによって強化できると確信する。

ICNは、富が高所得国と低所得国の間に明確な境界をもたらし、ICTへの備えに影響を及ぼすと認識する。しかしながら、ICNは、世界、地域、国及び地方レベルの明確なリーダーシップや重点政策が、ICTを実現するために必要なインフラとスキルの提供に役立つと確信する。

ICNは、ICTに関する優先事項の確立を支援するため、世界及び地域レベルで活動している。ICNは、保健医療及び看護師の労働生活を向上するために、ICTの導入支援及びアクセスと利用の促進に向け、国及び地方レベルで各国看護師協会（NNA）と協働している。

背景：

看護師は、健康の増進、疾病の予防、健康の回復及び苦痛の緩和に向け、個人、家族及びコミュニティと協働する²。

世界の固定電話料金は安価になっているが、多くの人が未だに電話でつながっていない。携帯電話の電波は世界の人口のほぼ100%に到達しようとしているが、多くの人が未だに携帯電話を所有してい

¹（訳注）デジタル・ディバイドとは、原文では「digital divide」であり、本文においてはICTの普及や情報アクセスの社会的及び経済的格差を意味するものとする。

² International Council of Nurses (2012), Code of Ethics for Nurses. Geneva: ICN.

ない。世界における携帯ブロードバンドへの加入は増加しているが、世界の人口の大半は未だにインターネットアクセスが全くない。インターネット利用者の割合は、ある国ではほぼ 100%、他の国では 1%未満と多岐にわたる³。

アクセスのさらなる公平性がない限り、現在の SMS や電子メール等の電子通信への移行及び情報と知識の源としてのインターネットへの移行は、世界の人口の大部分及び多くの看護師の権利を剥奪することになる。

2014 年採択

関連ICN所信声明：

- 患者への情報提供 (2008)
- 看護と開発 (2007)
- ソーシャルメディアの利用 (作成中)

2014 年 (公・社) 日本看護協会訳

- | |
|---|
| <p>* 文書中の「看護師」とは、原文では nurse(s)であり、訳文では表記の煩雑さを避けるために「看護師」という訳語を当てるが、免許を有する看護職すべてを含むものとする。</p> <p>* ICN 所信声明の著作権は、国際看護師協会(ICN)にあり、ICN の許可のもとに、(公・社) 日本看護協会が日本語訳を作成しました。許可の無い商業目的での使用を禁止します。</p> |
|---|

³ http://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/Documents/publications/mis2013/MIS2013_without_Annex_4.pdf.pdf